



SS series kumanofude Xmas beauty 2nd

<セット内容>

SS1-2 パウダー灰リス

SS3-3 ファンデーション

SS4-3 アイシャドウ ななめ

SS4-5 アイブロウ

SS4-7 アイシャドウ 小

SS4-8 アイライナー

SS5-1 リップ

SS 筆巻きハーフ

オリジナルポーチ



<SS series>

180年の歴史を持つ熊野の筆作りから生まれ、世界に誇る熊野「化粧筆」の技術を存分に実感していただけます。
毛質・毛量・形状・デザインなど、未来を見据えた化粧筆の形に、こだわりが盛り込まれたシリーズです。

世界に誇る「メイドインクマノ」

原料から形状や操作性まで緻密にこだわり制作された化粧筆“SS シリーズ”が美しさの可能性を広げます

＜使用方法＞

SS3-3 ファンデーション

スキンケア後、メイクアップベースを顔全体に薄く塗布し、少し時間を置いて定着させます。SS3-3 ファンデーションブラシに少量のファンデーションを馴染ませ、

頬を中心に顔の中心から外側に向かってブラシをスライドさせます。ブラシに残った少量のファンデーションで、細かい部分に塗布します。皮脂の出やすい T ゾーンや、

動きの激しい目や口の周りは、ヨレや崩れを防ぐためにファンデーションの量は少なめにのせます。ティッシュなどでブラシについた化粧品を優しくふき取り、スジムラが残らないよう

ブラシで軽くなるようにして馴染ませていきます。※リキッド、クリーム、パウダー、クッションファンデーションのムラを馴染ませる場合にも使用していただけます。



SS1-2 パウダー灰リス

フェイスパウダー少量を穂先にまんべんなく含ませ、優しくなでるようにブラシを動かしてなじませていきます。顔全体に薄くペールをかけるように軽やかにのせていきます。

※ベースメイクをキープするために、メイクアップミストもおすすめです。

SS4-3 アイシャドウ ななめ

アイシャドウの発色を良くするために、まぶたのくすみをカバーします。ブラシの天面にハイライトやアイシャドウのベースカラーを取り、まぶた全体に優しく馴染ませます。

※Tゾーンや眉下などポイント的なハイライトやノーズシャドウにも使用していただけます。

SS4-5 アイブロウ

アイブロウベースを少量取り、眉毛の少ない部分を埋めるようにのせます。その後、アイブロウパウダーをブラシに取り眉山から眉尻を描き、

次に、眉山に向かって眉毛中央～眉頭まで毛流れに沿うようになじませます。※ペンシルやリキッド、ティントや眉毛用のマスカラなどを併用するとより多様な質感表現が可能です。

SS4-7 アイシャドウ 小

片面に、肌色よりも明るい色味をなでるように優しくとり、アイシャドウを穂先になじませます。一番明るくしたい瞼の中央に最初に筆を置き、瞼全体にアイシャドウをなじませます。

次に、アイシャドウブラシのもう一方の面に、お好きなアイシャドウを少量なでるように優しくとり、ティッシュの上でアイシャドウをなじませた後、瞼の際にブラシを置き、アイホールへぼかしていきます。

※アイシャドウブラシは、毛先のある側面を寝かせて、なでるようにして使用するとムラができるにくく、美しく仕上がります。

SS4-8 アイライナー

アイシャドウの濃い色をブラシの先端に取り、少しずつ左右に動かしながらまぶたの間にのせます。※アイライナーペンシルを引いた後にアイライナーブラシの先端でぼかすとムラなく自然に仕上がりります。

SS5-1 リップ

おろしたばかりのリップブラシの穂先はのりで固めであります。先端から指先で優しくほぐして使用していきます。リップカラーを穂先にたっぷり馴染ませ、左右の口角から中央に向かってリップをのせます。

穂先を寝かせて唇に沿わせることがラインをキレイに描くポイントです。リップをのせた後、軽くティッシュオフをしてグロスなどを中央に重ね付けすると立体的で美しい口元に仕上がります。

＜お手入れ方法＞

メイクアップの後は、筆のお手入れをしていきましょう 使用後はティッシュで穂先をなでるようにやさしく化粧材を落としていきます。



化粧材や油分などで毛先がもたついてきたら洗浄していきます。穂先を水かぬるま湯に浸し、

固形石鹼など洗浄剤で手洗いを行います。流水で何度もすすぎ洗いをし、

水気を切って陰干しします。パウダーブラシなど、書筆の大筆くらいの径がある筆は、

乾くのに時間がかかります。根元からしっかり乾燥させてから使用しましょう。



＜SS 筆巻きハーフ＞

熊野筆の穂先は非常に繊細です。

持ち運びや収納の際にはブラシケースがおすすめです。

